



## vol.9 鎌田宏美さん

---

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？ JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第9回目に登場いただくのは、[富士通株式会社 DSP 本部](#)でグローバルビジネスシステム統括部に在籍し、開発保守を担当されている鎌田宏美さんです。聞き手はJOI情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。

---



富士通株式会社 鎌田宏美さん

## 海外の方とコミュニケーションを取る仕事

山口 みなさん社名などよくご存知かと思いますが、富士通とはどんな会社ですか？

鎌田さん ITソリューションに関するサービスやテクノロジー、製品を提供している会社です。自由な風土の会社で、服装の制約等もありません。テレワークと会社への出勤とのハイブリッド形式で仕事をしています。また、グローバル展開をしており、海外の方と一緒に仕事をする機会もあります。

山口 グローバルビジネスシステム統括部に所属とのことですが、どのような仕事をしていますか？

鎌田さん 現在は、富士通製品のコールセンターのシステムを刷新するプロジェクトを進めています。グローバル標準に沿ったリニューアルを計画しているため、海外の方と英語で打ち合わせをしながら、どのような仕様にするか話し合っているところです。

## 大学時代は自然いっぱいのキャンパスで勉強

山口 ご出身は関西と伺いましたが、これまでのキャリアを簡単に教えてくださいませんか？

鎌田さん 生まれは大阪府吹田市というところですが、その後、家族の転勤で埼玉に引っ越しし、転々としていましたが、小学校に入学してから就職するまでは、兵庫県西宮市で育ちました。大学は兵庫県と岡山県の県境にある兵庫県立大学に進学しました。

山口 キャンパスは自然豊かな環境にあったそうですね。



鎌田さん 地図を見るとわかるとおり、山の中にありました。交通の便が悪く、実家から通おうとすると、同じ県内でも3時間ほどかかるので、近くの寮で3年間ほど寮生活をしていました。

山口 大学院では京都大学に進まれましたが、モチベーションなどありましたか？

鎌田さん 大学の先輩が京都大学の大学院に外部進学をして、話を聞いていたので、私も興味を持つようになりました。

## 大学院で細胞生物学の研究に勤しむ

山口 細胞生物学を研究されていたようですが、どのような研究ですか？

鎌田さん 学部生時代は理学部理学研究科にいて、大学院でも同様の研究ができる学部へ進学しました。たとえば私たちの体は細胞でできていますが、細胞の一つひとつの中にはさらに細かい器官があります。私はその小さな器官の研究をしていました。数ミクロンやマイクロといった、目に見えない分野ですね。

山口 実験するにあたり、培養などもされていたんですね。

鎌田さん パンやお酒などをつくる時に使われる「酵母」という微生物がいるのですが、生物学的には「モデル生物」と言われ、実験によく使われる生物のひとつです。私も酵母をメインに使い研究をしていたので、酵母を培養し、サンプルを抽出して実験を行っていました。

山口 学会発表などもしましたか？

鎌田さん ポスター発表などをしました。国際学会で発表する機会はなかったものの、京都で国際学会があったときに参加し、発表者に英語で質問をしました。自分が思っていることを専門用語も交えながら、外国語で伝えることに苦労はしましたが、相手の方も配慮してくれたので、いろいろとお話できて、いい機会になりました。



## 研究のかたわら、スーパーで試食販売のアルバイトも

山口 そのほか、学生時代のエピソードで印象に残っていることはありますか？

鎌田さん 研究に勤しんではいたのですが、スーパーで試食販売のアルバイトもしていました。実験が優先のため、終わる時間がわからないのと、土日にバイトをしたかったので、そこが合致して試食販売のバイトを選びました。また、自分の引っ込み思案な性格と声の小ささが気になっていたので、できれば克服したいと思ったのも理由のひとつです。青果だとカボチャやトウモロコシ、加工食品だとハンバーグなどを店舗のバックヤードで調理して、店頭を持って行き、お客様に手渡しするという仕事です。

山口 おもしろいですね。大学の研究の話に戻りますが、細胞生物学からエンジニアのキャリアへと進むには少しギャップがあるように感じます。

鎌田さん たしかに、研究内容からすると、なぜ富士通に？と思われる方もいるかもしれませんが。実は理学系にいたものの、理科の教員免許も持っています。もともと理系に進もうと思ったのは、小学生のときの理科の先生に影響を受けたことがきっかけだったので、

教職課程も取っていました。その際に学校の見学をする機会があり、ITが使われていることを知りました。教育でもこういうことができるんだ、と興味を持ち、いまに至っています。少しユニークかもしれませんが。

山口 理系を選んだのは、小学校の理科の先生の影響だったのですね。

鎌田さん 実験がすごく楽しくて、そこから理科が好きになりました。理系を選んだのは、なんでこうなるんだろう？という疑問をとことん突き詰めたいという性格もあったと思います。その中でも生物系を選んだのは、やはり実験が好きだったからです。

**手芸やひとり旅などの趣味も充実**

山口 趣味もたくさんあるそうですね。



鎌田さん ハマっているのは、「クロスステッチ」という刺しゅうです。バツ印を刺しゅう糸で塗って行って、最終的に図案が完成するというものです。あとは料理も好きですし、ビーズ細工もやります。ひとりで旅行に行くのも好きですね。



こちらは、夏に行った「BUMP OF CHICKEN」ライブでもらった光るブレスレットです。ライブが始まると、自動的にあるパターンで光るようになっています。身につけて手を振っていました（笑）。



先日、ひとりで〈箱根ラリック美術館〉に行ってきました。ガラス工芸作家のルネ・ラリックがデザインをした、「オリエント急行」というヨーロッパを走っていた長距離夜行列車があるのですが、その実際の列車が博物館に置かれていて、その中でアフタヌーンティーが楽しめるというイベントがあったので参加しました。チケットも切符のようなデザインで、案内の方が切符をもぎってくれました。



ハンドメイドのアクセサリも好きで、東京ビッグサイトなどで行われるクラフト作家さんのイベントなどに足を運んだりもしています。

山口 プライベートも大変充実していらっしゃるんですね。仕事と学生時代の研究、プライベート、どれも分野的には離れていそうですが、もともとプログラミングには興味がありましたか？

鎌田さん 既存システムの保守にも携わっているので、Linux や Java などのプログラミングにはもちろん触れています。プログラミングを本格的に始めたのは、大学の情報の授業でした。私が小学生の頃は、情報の授業はありましたが、フロッピーディスクから USB メモリが出始めた頃で、ひとりにひとつ USB メモリが渡されて、画像を保存するレベルでした。ほかにも HTML を使ってホームページなどはつくっていましたね。

世界をいい方向に導く仕事に携わりたい

山口 小学生の頃の夢はなんでしたか？

鎌田さん 薬学系に興味がありました。小中学生の頃に読んだ、サリドマイドの薬害を題材にした漫画に影響を受け、正しい薬の知識を伝えられるような薬剤師になりたいと思っていました。

薬学系に進むことも興味はありましたが、最終的には実験が好きだという方が強くなり、生物系の学部に進学しました。

山口 エンジニアになってみていかがですか？

鎌田さん エンジニアといっても、私の場合は、ひとりでゴリゴリとプログラミングを書いて開発する技術者というより、いろんな方とコミュニケーションを取りながら、システムの仕様をどうするか、プランを構築していくのがメインの仕事になります。もちろん前提として、システムの知識は必要にはなりますが。

山口 今後の目標などあれば教えてください。

鎌田さん 自分のやっている仕事が、いつか世界をいい方向に導けたらいいなと思います。社内のシステムもそれなりの規模があるので、まずは自社で新しくシステムを刷新して、うまくいけば他社にも展開できると思っています。

山口 最後に、未来のプログラマーへメッセージをお願いします。

鎌田さん これを読んでいる方は、プログラミングが大好きで、いろいろ触っているかと思います。自分が好きなことに夢中で没頭する時間はとても貴重です。ぜひ好きなプログラミングを突き詰めていっていただければと思います。楽しんでください。

山口 本日はありがとうございました。

#### 【インタビューを終えて】

鎌田さんのキャリアは、一見プログラミングとは全く関係ないような歩みをなさっています。しかし、仕事を進めるにあたって、切っても切れない関係となったことが伝わりました。

た。その勉強を進めつつも、素敵な趣味を持ち、楽しそうな人生ですね。私も興味深い内容が多くて、今回のインタビューとは別にお話をしたくなりました。（山口）

次回もお楽しみに。